



No rain, No rainbow

# 車輪梅

&lt;鹿島中学校 学校だより&gt;

【令和3年3月号②】

《重点目標》『自立した品格を目指し 学び合い 認め高め合い 最後までやり遂げよう』

## 第38回卒業証書授与式を挙行了しました！

3月12日(金)、令和2年度第38回卒業証書授与式を行いました。新型コロナウイルス感染拡大防止のため、限られた諸条件のもと教職員、在校生で創意工夫し心を込めて準備をした式場では教職員と保護者の皆様が、各教室では在校生がリモートで卒業生の門出を祝福しました。

生徒会長が「先輩が築き上げた『困難な状況でも最後まで諦めず新たな価値を創造する』という新しい伝統を引き継ぎ、学校をよりよくしていきます。」と送辞を述べ、前生徒会長が「様々な活動を通して深い絆で結ばれた在校生の皆さんのこれからの活躍を心から応援します。」と答辞を述べました。さらに「新型コロナウイルスの影響で、日々我慢しなければならないことが増えていきましたが、逆境の中で友と手を握り合いながら、寒さに耐える術を学びました。」と、中学生最後の一年間を振り返りました。

在校生による式歌「旅立ちの日に」は、事前に6クラスの合唱とピアノ伴奏を収録し、それらを重ね合わせて感謝の気持ちを込めた200人の合唱の動画にして届けました。卒業生による式歌「卒業の唄 アリガトウは何度も言わせて」は、感染症対策のためマスク着用のまま、正面を向いての歌唱となりましたが、3年間の中学校生活に対する思いが込められた歌声が会場を包み込みました。



### <式辞抜粋>

皆さんは、コロナ禍のこの1年を「特別な1年」と呼び、「伝統をゼロから築き上げよう」という意気込みで数々の新しい試みに果敢に挑んできました。「どうした

また、ワクチン接種が始まったとは言え、この感染症は長期間に渡り人類が付き合っていく可能性が高いと考えられています。私達の社会はこれからも変化が求められていくことでしょう。

「忍耐は苦いがその実は甘い」

らできるか」を考え、仲間達と励まし合い議論し合い、多くの困難を克服してきました。

みなさんの中学校生活最後の1年間の思い出の多くはピンチの場面ばかりだったかも知れません。しかし皆さんはピンチをチャンスにかえてきた者しか手にすることのできない「逆境を跳ね返す力」を身につけることができたのではないかと思います。

現状を嘆くのではなく、今を受け入れ絶えず前へと進んできた皆さんの姿に本校が理想とする生徒像を見出すことができたように思います。仲間と共に試練を乗り越えてきた経験は今後それぞれの人生を生きていく上で大きな自信となることと思います。

東日本大震災から丸10年を迎えましたが、先月福島県沖で発生した大きな地震は、あの震災はまだ私たちの目の前に横たわっているのだという現実をつきつけました。

### 式次第

- ・卒業生入場 (CDによる入場曲)
- 1 開式のことば
- 2 国歌斉唱 (CDによる演奏)
- 3 学事報告
- 4 卒業証書授与
- 5 校長式辞
- 6 教育委員会挨拶 (要項の印刷物)
- 7 来賓祝辞 (PTA会長様)
- 8 祝電披露 (掲示、印刷物を同封)
- 9 送辞 (生徒会長2年)
- 10 答辞
- 11 式歌 (事前に収録した動画…在校生) (感染防止対策のうた歌唱…卒業生)
- 12 校歌斉唱 (CDによる演奏)
- 13 閉式のことば
- ・卒業生退場 (CDによる退場曲)

この言葉は私たちの郷土福島県が生んだ世界的な医学者、野口英世博士の言葉です。幼少期の恵まれない境遇をものともせず、努力と情熱で世界に羽ばたき、異国の地で目に見えない細菌の研究に没頭し、人々の命を救った博士の考える忍耐には、夢や未来に向かって「あきらめない」との強い思いが込められていたと言われています。みなさんの未来には大きな障壁が立ちはだかるかもしれません。しかし、一人一人が「現状を変えたい」という強い思いを抱き、「逆境を跳ね返す力」を発揮し、自らの人生を自らの力で切り拓いていってください。



※カラー版を本校ホームページ上でご覧いただけます。